

研究所 月報 2022.8

アルコールチェックの義務化

検知器による確認は延期に

2022年4月からスタートしたいわゆるアルコールチェックの義務化ですが、10月からはアルコール検知器を用いた確認が求められる予定となっていました。

しかし、アルコール検知器の供給状況等を踏まえ、当分の間、その義務化に係る規定を適用しないこととする内閣府令案が示され、パブリックコメントの募集が行われています。

その内容は以下のとおりとなっています。

■道路交法施行規則の一部を改正する内閣府令の施行により、安全運転管理者に対し、令和4年4月1日から目視等により運転者の酒気帯びの有無について確認を行うこと等が義務付けられ、同年10月1日からアルコール検知器を用いて当該確認を行うこと等が義務付けられることとなる。

■安全運転管理者が当該義務を履行するためには、アルコール検知器を用意する必要があるところ、最近のアルコール検知器の供給状況等を踏まえ、当分の間、アルコール検知器の使用義務化に係る規定を適用しないこととする。

●施行期日：改正法附則第1条第2号に掲げる規定の施行の日（令和4年10月1日を予定）とする

現場からはその負担の大きさから不満の声が多く聞かれたこのアルコール検知器による酒気帯び確認ですが、まず2022年10月の義務化は見送られることになるようです。

お盆明けには正式な対応が示されることになろうかと思っておりますので、注目しましょう。



50.8%の企業が直近半年間でアルバイトの給与引き上げを実施

最近ではテレビCMでもアルバイトの時給の引き上げがテーマになったものが放送されていますが、人手不足もあり、実際にアルバイトの給与が上昇しているようです。

今回は、マイナビの「非正規雇用の給与・待遇に関する企業調査（2022年）」からその状況について見てみることにします。なお、この調査は、2022年5月18日～5月29日に実施されたもので、調査対象は2021年12月～2022年5月に非正規雇用の採用業務に携わった20～69歳の男女（有効回答数1,545名）となっています。

これによれば、直近半年間でのアルバイト給与の見直し状況を1年前と比較すると以下のようになります。

■上げた	50.8% (40.0%) ※ () 内は前年2021年の結果
■下げた	4.8% (5.6%)
■変わらない	44.5% (54.4%)

このように直近半年間でアルバイトの給与を「上げた」企業は50.8%となり、前年より10.8ポイント増加しています。

また、給与を上げた理由の上位は以下の通りで、採用難が時給の上昇につながっていることが分かります。

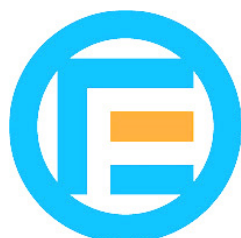
■人材確保が難しくなったため	42.1% (+3.1ポイント)
■既存社員のモチベーションアップのため	36.5% (△0.2ポイント)
■市場動向・同業他社動向を踏まえて	29.6% (±0ポイント)
■会社規則に基づいた昇給	26.3% (+2.2ポイント)
■正社員との不合理な待遇改善のため	25.3% (+2.4ポイント)
■コロナウイルス感染拡大による特別手当	16.9% (+2.5ポイント)

採用難はまだまだ当分の間続くことは確実で、10月には最低賃金の引き上げも行われます。時給の上昇も継続することが見込まれますので、それに対応できるだけの収益性の向上を進めておかなければなりません。

ひらたコラム

今年から始めたキーボード弾き語り、恐れ多くも名門ライブハウスで5月に初ステージを踏みました私ですが、なんと早くも2回目のステージの機会をいただき…。楽曲も4曲から5曲、さらに直前で7曲に増え、心配事もたくさん。もうわけがわからないまま弾き散らかしてきました。

やはり本番の雰囲気というのは独特で、練習で何の問題もなかったはずのところがちやめちやになったり、逆に心配だったところはすんなりと弾けたり…。もともと才能がある方ではないのは自覚しているので、すでに限界以上ですが、せっかく貴重な機会をいただいたので、細く長く続けていきたいと思えます。



発行/2022年7月29日 第123号
平研究所 代表・社会保険労務士 平田 さやか
733-0865 広島県広島市西区草津本町 9-18-201
TEL 082-530-2344 / FAX 082-553-0544
Mail info@tairaken95.com
URL http://tairaken95.com

